

Berlin Report

January 2020

CONTENTS

- * Project 1: Freiraum / Retail-as-a-Service
- * Project 2: Beba / Restaurant

1. Freiraum

Project Overview

ミッテ地区の高級ショッピングモール「Quartier 205」の中にオープンした「Freiraum（フライラウム）」。
一見、普通のセレクトショップなのだが、実はここは試着専門のセレクトショップ。お客は、洋服やファッション雑誌だけでなく、家具なども実際に使ったり、座り心地を試すことができる。気に入ったら、QRコードや専用のアプリを使って購入。あとはそれぞれのブランドが、直接お客の手元に配送するというシステムだ。

店自体は在庫を持たずにすみ、オフラインのセレクトショップということもあって、ブランドにとっては新たな顧客層の開拓のきっかけとなる。お客は、キャッシュレスで購入でき、重たいものを持ち運ぶ必要もない。

セレクトを担当するのは、オーナーのフランツ・デ・ヴァール。ヨーロッパ圏を中心とした人気のオンライン・ブランドを20～23種類、1～2ヶ月置きに入れ替えていく予定だ。

インテリアは、様々な箱が並ぶ街をイメージ。それぞれのブランドをハンガーラックや、側面を様々な色に塗り分けた棚などで緩やかに仕切って、アクセントとなるカラーや壁を塗り分けている。

ベルリンのテープアーティスト集団「Tape That」が手掛けたグラフィカルな壁の模様や、照明が個々のスペースを横断してつなぎ、街のような風景を実現している。

Project Details

1. Type of Business : Retail
2. Open Date: 02/12/2019
3. Location: Quartier 205, Friedrichstrasse 68, 10117 Berlin
4. Size: 350 m2 (3 Stores)
5. Architect: Inhouse / Franz de Waal

Location Map





有孔ボードを使った棚や組み合わせ可能な可動式のシェルフで、毎月の展示変えに対応



試して自撮りできるコーナーを作っている



インテリアにはベルリンのストリートアーティストを起用



ショッピングモール既存の金属のファサードを店の看板にも反映

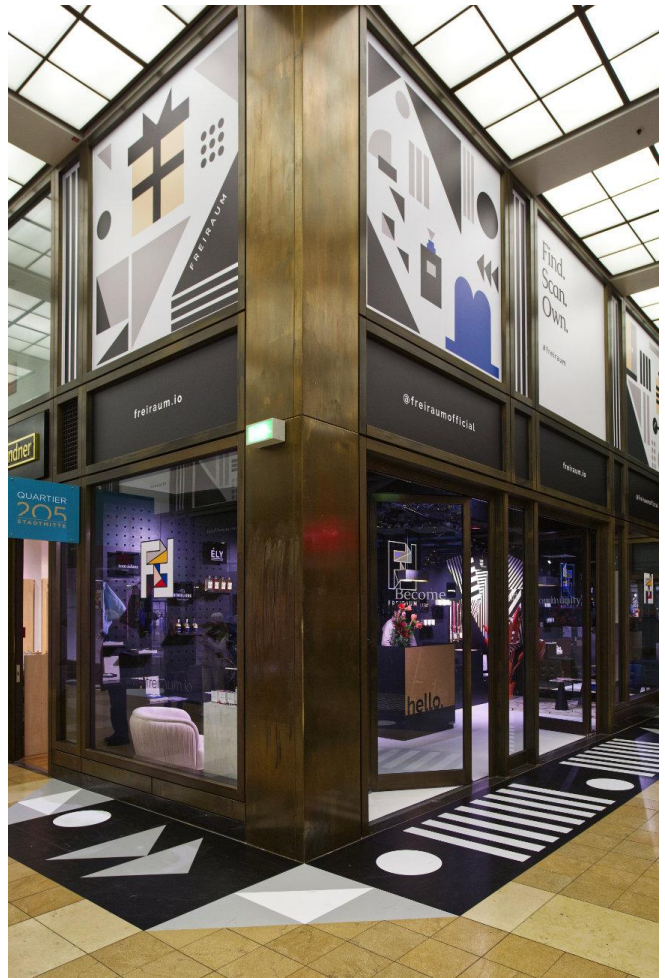


有孔ボードを使った棚は、側面を異なる色で塗り分けている



店舗は隣接する3つ。それぞれ洋服、食品、スポーツ用品を扱う。

写真は食品。



ショッピングモールの照明や床の幾何学模様が、店のインテリアのコンセプトの箱が並ぶ街のようなイメージにつながっている。

2. Beba

Project Overview

ベルリンの現代美術館「マーティン・グロピウス・バウ」の中に、今春にオープンしたカフェレストラン「Beba」。ダンサーのシャニ・ライダーマンが、料理上手でパワフルだった祖母の名前を冠してスタートした店では、新鮮な野菜を使ったイスラエル料理とアメリカの焼き菓子が楽しめる。

おばあちゃんちの居間のような場所をイメージした、大理石の丸テーブルとトーネットの椅子というカフェハウス定番の家具と共に置かれているのは、ピンク色の人工的な光を放つ、ヴァーティカル・ファーム（垂直農法）のガラスケースだ。これは、ベルリン発のスタートアップ「Infarm」が提供するサービス。人口が集中し、都市部の農業は難しくなっている反面、ローカル食材への欲求は高まるばかり。この農法ならば、広い土地や日光も不要。ガラスケースの中で LED ライトと栄養分を含む水が循環して野菜やハーブを育てることができるとあって、いまベルリンを中心にドイツ中で大人気なのだ。ライダーマンは、以前「Infarm」で働いており、自分の店を開いたら、このサービスを料理とインテリアに取り入れたいと考えていたのだとか。

19 世紀末に建てられた現代美術館の高い天井と広々とした空間の中にある、クラシカルな家具と近未来的なヴァーティカル・ファーム。そのミスマッチが面白く、老若男女誰もが寛げる空間づくりに成功している。

Project Details

1. Type of Business: Restaurant
2. Open Date: 22/03/2019
3. Location: Martin-Gropius-Bau, Niederkirchnerstrasse 7, 10963 Berlin
4. Size: 90 m2
5. Vertical-Farming: Infarm

Location Map





壁一面に並ぶヴァーチカル・ファームのケースの中心には、店長の祖母の肖像画が飾られている。

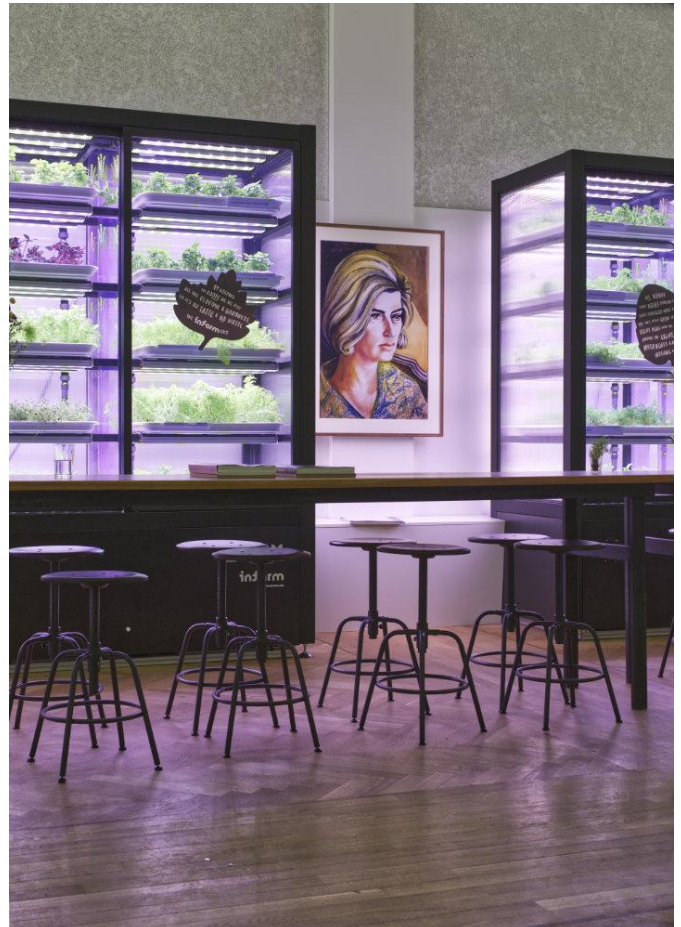
テーブルの上にも、卓上花の代わりにここで育てているハーブを置いている。



白いタイルとモザイクフローリングと、色も素材感も控えめなので、店頭に並ぶ野菜のグリーンに目が行く。



まさにとりたて！野菜たっぷりのボリュームランチは、美術館を訪れる人はもちろん、近隣のオフィスワーカーにも好評。



客層は様々。ヴァーチカルファームを初めて目にする人も多い。育てている野菜やハーブの説明を貼ってお客の興味をひく。